

文化財だより 第188号

磐田市教育委員会教育部文化財課 令和2年11月1日発行

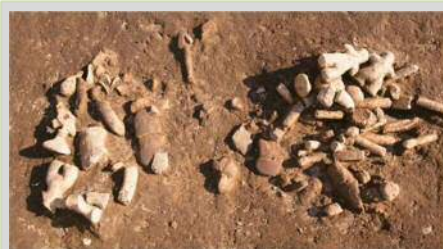
- ただいま修理中！ ～重要文化財・明ヶ島古墳群出土土製品の保存修理の現場から～・・・P1～2
- いわたのこんなお話・・・P3
- WEBで文化財だよりを楽しもう！・・・P4
- コラム『コロナに倍返し！ 民俗行事を伝える』佐口節司・・・P4

ただいま修理中！

～重要文化財・明ヶ島古墳群出土土製品の保存修理の現場から～

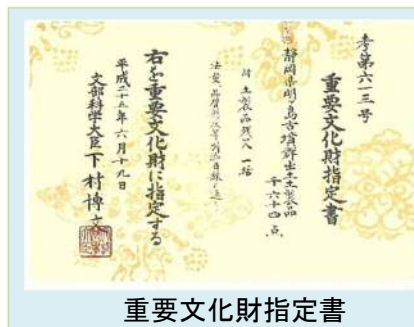
明ヶ島古墳群出土土製品とは

明ヶ島原にあった明ヶ島5号墳の墳丘下から検出した、一辺約17m、高さ0.6mほどの方形の高まり（土壇）から、6,000点以上の土製品が出土しました。これらの土製品は、この場所を清めるための



発見されたときのようす（平成10年）

お祀りにつかわれたものと考えられ、種類や量が例のないものであることから、平成25年に国の重要文化財に指定されました。動産で文部科学大臣の指定を受けた市内唯一・最高の価値がある文化財となります。



重要文化財指定書

発見された土製品は10cm足らずのもので、男性や女性、武人を模したもののほか、かぶと、よろい、弓、盾などの武器、^{おのくわ}斧や^{きね}鋤などの農具、犬や鳥などの動物、杖や杵などの道具、珍しいものでは琴や笛などの楽器類があります。出土した土製品から、当時の人々の信仰や生活の様子、道具の変遷を知ることができます。



明ヶ島古墳群出土土製品

保存修理事業とは

平成26年度から8年計画で保存修理事業を行っています。これまでは市販の接着剤でくっつけてあるだけで、欠けたところも石膏や紙粘土で補っていましたが、半永久的に保存できるよう、樹脂を使用して専門家による修復・復元作業を行っています。

年3回、文化庁の調査官など研究者の立ち合いのもと、復元が完成していきます。



保存修理に使う薬品など



検収・指導風景

生まれ変わった土製品たち



今後の予定

保存修理事業は令和3年度で完了する予定です。完了したのちには、皆様にも保存修理の成果をじかに見ていただく機会を設けたいと考えております。ぜひ楽しみにお待ちしております。

お楽しみに！



©磐田市



義貞・義昌 ぜっきょう 天竜川絶橋を越える

磐田市の西側に流れる天竜川。今回のいわたのこななお話は、南北朝時代、天竜川が舞台になったお話を紹介します。

時は建武2年（1335）、鎌倉幕府を滅亡させた武将・新田義貞が、足利尊氏との主導権争いののち、箱根竹下の戦いで足利勢に敗れ、西へと撤退していたときのことです。

義貞の軍勢は、天竜川の東岸までたどり着きましたが、上流の雨により川が増水し渡ることができません。

そこで義貞は浮き橋（※）をつくり、味方の軍勢を渡らせますが、いざ義貞が渡りかかった時、何者かの仕業か張り渡した綱が切れ浮き橋が途切れてしまいます。

途切れた長さは、約4m。それを見た味方がうろたえ注視する中、義貞と義貞の重臣船田義昌は、手を組んで浮き橋の途切れてしまった部分をひらりと飛び越え、見事対岸へとたどり着くことができました。

また義昌の兵の中には、^{よろい}鎧姿のまま川に入り、流されてしまった馬と人を助けた者、味方を対岸へと投げて川を越させ、さらに両脇に人をかかえ落ちた橋を飛び越えて渡った者もいました。

これらを遠くから見ていた軍勢は、「なんということだ。義貞もその配下も優れているが、ただ時の運によって、竹下の戦いに敗れてしまったのは嘆かわしいことだ。」と言ったといわれています。

（※）水上に、^{いかだ}筏や船をならべ、その上に板をわたして橋のかわりにしたもの



歌川芳虎『書画五十三駅 見附』

以上の話は、太平記の一節を参考にしています。太平記は、1370年代には成立したとされる南北朝時代の50年余りの動乱を記した軍記物です。

天竜川での義貞と義昌の話は、東海道名所^{ずえ}図会や浮世絵にも登場します。



『東海道名所図会』

東海道名所図会は江戸時代に刊行された、宿場や、歴史・伝説などを紹介した地誌で、義貞と義昌の話は、挿絵つきで掲載しています。

また、江戸時代末から明治時代中頃の浮世絵師である歌川芳虎が描いた作品（上図）では、義貞と義昌の躍動感あふれる一瞬を、鮮やかに表現しています。

天竜川を舞台にした武将の勇ましさがるお話です。

磐田市ホームページで公開中

WEBで文化財だよりを楽しもう！

パソコンやタブレット、スマートフォンなどから閲覧できます！



©磐田市

ご自宅でいわた文化財だよりを楽しんでみませんか。市ホームページでは、最新号のほかバックナンバーも公開しています。バックナンバーの閲覧方法と、これまでに発行した文化財だよりの中から今月のお勧めをご紹介します！

● 閲覧方法 ●

磐田市ホームページトップページ内のページ番号検索に1007901を入力後、いわた文化財だよりのバックナンバーの一覧から閲覧したい号数をダブルクリックしてください。

● 今月のお勧め ●

昭和3年11月から昭和11年1月まで運行していた『光明電気鉄道』をご存知ですか？市内に残る光明電鉄の痕跡などを126、127、129～131号の5回にわたって連載しています。ぜひ、お読みください。



職員リレーコラム

コロナに倍返し！

民俗行事を伝える

佐口 節司

今年は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、多くの民俗行事（伝統行事）が、中止または縮小した所作でおこなわれることとなりました。江戸時代以前、庶民の生活を一変させる病魔が広がると、人々は平穏な生活を守るため、神仏に厄除や疫病退散などを祈願しました。文化財だより181号（令和2年4月）で紹介した『池田やかた祭り』をはじめ民俗行事の多くは無病息災など平穏な生活を祈るためにおこなわれます。

また、病魔は神がもたらしたものと信じられ、神として祀られるようになりました。『東海道分間延絵図』では見付宿の東外れに「疱瘡神」の記述が見られます。

今年は磐田市内に伝わる民俗行事の大半が中止となり、「いつもと違う」と思いながら日々を過ごしています。苦渋の決断をされた民俗行事の継承に努力してきた関係者の皆さんの心中はなおのことだとお察します。大好きだったあの行事、心に伝わるあの行事も、来年は必ず見ることが、参加することができるかと信じています。コロナを乗り越え、**「来年はコロナに倍返し」**・・・でも、「倍返し」ってどうすればいいんでしょうか？行事を100倍楽しんでみたいと・・・**頑張ろう！日本**



遠州大念仏（松之木鳴組）の様子

松之木鳴組は例年行われる初盆供養を中止し、川供養（川施食）などの供養を縮小した形で行いました。

編集後記
明ヶ島古墳群出土土製品の公開が決まりましたら、文化財だよりでもお知らせします。
お楽しみに！ワンツ



発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699
◆WEB版は市HPから閲覧できます。



磐田市 文化財だより 検索